

石見神楽のYouTubeライブ配信がもたらす 観光振興効果と課題の検討

江 口 真理子

1. はじめに
2. 方法
 - (1) ライブ配信の手順
 - (2) ライブ配信視聴体験の評価
 - (3) 潜在的観光客の増加
 - (4) 石見神楽鑑賞意欲への効果
 - (5) データ収集方法
3. 結果
 - (1) 回答者の概要
 - (2) ライブ配信視聴体験の評価
 - (3) 潜在的観光客の増加
 - (4) 石見神楽鑑賞意欲への効果
 - (5) 自由記述欄のコメント
4. 考察
 - (1) ライブ配信視聴体験の評価と課題
 - (2) 潜在的観光客の増加
 - (3) 石見神楽鑑賞意欲への効果
5. おわりに

1. はじめに

近年、国内旅行市場の縮小と訪日外国人客の増加、および、地方経済の低迷を背景として、インバウンド観光が注目されている。文化庁は地方の観光資源を「日本遺産」に指定する事業を通じて、各自治体に積極的なインバウンド観光の振興を促している。なぜなら、外国人を日本に誘客するインバウンド観光は市場を奪い合う国内旅行とは異なり、外貨の獲得を意味し、観光市場自体を拡大させるものだからである。

人口減少が深刻な問題となっている島根県西部においては、地元の伝統芸能である石見神楽が日本遺産に指定され、インバウンド観光の取り組みが展開されている。石見神楽鑑賞を組み込んだ外国人向けのモニターツアーの実施や、毎週土曜日の夜に定期的な神楽上演が行われている。しかし、夜神楽公演の観客は地元住民が多く、石見神楽がインバウンド観光振興に寄与しているとは言い難い（「観光振興に生かせ石見神楽」、2019）。2020年から始まった世界的なコロナウィルスの蔓延も足かせとなり、石見神楽という宝を観光振興

に生かしきれていない。

この問題の原因の一つとして、石見神楽の魅力が石見神楽をよく知らない人に伝わっていないことが挙げられる。藤村（2012）は、石見神楽のような地方の伝統芸能を観光の商品として販売するには、潜在的な観光客に対して石見神楽についての詳しい知識を与えることが必要であると主張している。なぜなら神楽の良さを理解するには題材となっている神話や口上・歌、所作、衣装、小道具などについての幅広い知識を必要とするからである。石見神楽の魅力を紹介するメディアとして動画に注目した江口（2020）は、どのような動画が石見神楽の鑑賞意欲を向上させるかについて調査したところ、パフォーマンスをそのまま見せる動画よりも、石見神楽についての明確なメッセージのある動画の方が石見神楽鑑賞意欲を向上させたことを報告している。また、パフォーマンスの動画より、石見神楽の歴史や特徴について解説をしたレクチャーの動画の方が石見神楽鑑賞意欲を高めた（江口、2022）と報告し、藤村（2012）の理論を支持している。

ところが、石見神楽の知識を与える動画が神楽鑑賞意欲を高めるという理論は、現実の視聴行動に照らしてみると、限られた局面であることがわかった。江口（2022）で用いた英語による石見神楽の動画は動画共有サイトであるYouTubeに公開して1年以上になるが、それらの動画の平均視聴回数を見てみると、2021年1月13日現在で、パフォーマンス動画が220回、レクチャー動画が103回であり、再生回数が伸びていない。また、筆者の石見神楽チャンネルの購読者数はわずか2名である。理論的には最後まで見れば石見神楽鑑賞効果があるはずと考えられるレクチャー動画は、パフォーマンス動画よりも不人気である。江口（2022）の研究において回答者は最後まで動画を見るように依頼されていたため、回答者はパフォーマンス動画もレクチャー動画も最後まで視聴したが、動画共有サイトの視聴実態はそれとは異なる。実際の視聴形態に即して、何かもっと効果的に石見神楽に対する知識を多くの人々に届ける方法はないものだろうか。

そこで筆者は、コロナ禍において一躍注目されるようになったライブ配信という新しい情報発信方法がより多くの人々に石見神楽の魅力を伝えることに役立つのではないかと考えた。ライブ配信とは事前に動画を作成して動画配信サービスにアップロードするのではなく、イベントが行われている最中にリアルタイムで動画を放送するものである。ライブ配信にはYouTubeを始め、FacebookやInstagram、ニコニコ生放送などのプラットフォームがあるが、動画のアップロードに比べて、必要となる機材が多い上、動画編集とは異なる技術が必要なため、あまり一般的ではなかった。しかし、コロナ禍によるイベント自粛要請が出された2020年2月以降、ライブ配信が急激に増えている（「ライブ配信需要」、2021、p. 12）。イベントの主催者は「今までと違う客層にリーチできる」、「より多くの参加者を期待できる」、「コメント等でリアルタイムに反応がわかる」、参加者は「気軽に参加できた」、「新しいことが学べた」、「無料だった」と述べ、ライブ配信の利点を挙げている（「ライブ配信需要」、2021、p. 13）。このような新奇性のあるメディアの利点を利用すれば、より多くの潜在的観光客に動画を見てもらえると考え、本研究では、YouTubeによる石見神楽の動画配信が潜在的観光客の増加に効果があるかどうか調べることを第一の目的とする。

新奇性による注目効果に加え、同期性と双方向性のあるライブ配信は、石見神楽鑑賞意欲を高める効果も期待できる。石見神楽のパフォーマンスを鑑賞する醍醐味は、会場に足

を運び演者と奏者の身体性を感じ、目の前で再現される神話の世界に没入する非日常性であろう。その特別な時間と空間を演者や他の観客と共有するには、特定の日にわざわざ島根県まで移動をして入場料を払わなければならない。それがライブ配信の同期性のおかげでそのような希少な機会に自宅から参加することが可能となるのだ。チャット機能を使えば主催者に感想や質問を投げかけることもできる。ただし、ライブ配信視聴は非日常空間への本当の参加ではない。録画された動画よりはリアルに近いが、リアルではない。今、別の場所で本物のイベントが行われているものをインターネット越しに閲覧しているという認識がリアルな参加体験を希求させるための原動力になるのではないだろうか。ライブ配信の視聴が、自分も現場での相互作用に参加したいという気持ちを引き起こさせ、石見神楽鑑賞意欲が高まると期待できる。本研究では、YouTubeによる石見神楽のライブ配信が石見神楽鑑賞意欲の向上に効果があるかを検証することを第二の目的とする。

さらに本研究では、石見神楽の魅力を伝える教育的なライブ配信を実行する上でどのような課題があるかを明らかにすることにも取り組む。筆者のライブ配信の狙いはただ単に会場の様子をそのまま配信することではない。そのままを放送するだけでは、観客を育てることはできない。そうではなく、石見神楽をよく知らない観客に石見神楽の魅力を伝えられる配信視聴体験を提供することである。そのためにはどのようなプログラムが良いか、言語はどうすれば良いか、カメラはどこに配置すれば良いか、音声はどうやってとれば良いか、視聴者と効果的にコミュニケーションするにはどうしたら良いか等、多くの疑問がある。本研究ではライブ配信未経験の筆者がYouTubeライブを試行し、これらの疑問を明らかにする。本研究は、財源に限りのある地方のインバウンド観光振興の創意工夫に資するケーススタディでもある。

以下では、2021年9月から12月に実施した石見神楽のライブ配信の手順、およびライブ配信視聴体験の評価・潜在的観光客の増加・石見神楽鑑賞意欲への効果についての調査方法を記述する。

2. 方法

(1) ライブ配信の手順

a) ライブ配信の内容

浜田市観光協会は浜田市と連携し、平成25年から毎週土曜日に観光客の増加を図るために石見神楽の定期公演を行なっている。「浜田の夜神楽週末公演」と名付けられたこの公演は豊作に感謝する神事としての神楽本来の姿を演出するために、浜田市相生町にある三宮神社の拝殿にて実施されている。時間は夜8時から9時までの1時間で、奏楽のイントロ、諸注意、パフォーマンスから成り立っている。

本研究では通常のプログラムに加えて、石見神楽についての知識を与えるため、社中の方とのインタビューと質疑応答をパフォーマンスの前後に設けることとした。石見神楽の鑑賞方法を身につけていない潜在的観光客が石見神楽を楽しむためには、石見神楽について知識を得る必要があると考えられるからである。石見神楽に子供の頃から触れている地元の神楽愛好家は太鼓のリズムを聞いただけでどこの社中かを言い当てられる。また、手足の所作を見ただけで誰が演じているかがわかると言う。演目の下敷きになっている日本の神話や和歌についての知識も豊富で、口上や神楽歌を暗唱できる。しかし、日本の神話

や神楽の所作の意味がわからない観光客にとっては、石見神楽は意味不明な儀式であろう。石見神楽の台本の多くは『古事記』・『日本書記』に依拠した格調高い中世の日本語で書かれているため、一般人にとってはわかりにくい（石塚、2005、p. 295）。神楽歌にいたっては母音を極度に伸ばすため聞き取りは非常に困難である。

石見神楽の教育的プログラム作りを含むライブ配信に協力してもらえる神楽社中を浜田市観光協会に紹介してもらえるように依頼した結果、3つの浜田の夜神楽週末公演のライブ配信をすることができた。インタビューの話題とパフォーマンスの演目は表1の通りである。

詳細はアーカイブスのURLから視聴可能である。なお、1回目のライブは筆者の大学の石見神楽サークルに協力してもらい7月に実施したが、それはライブ配信の練習だったので省略する。

b) ライブ配信のシステム構成

YouTubeライブを実施するためには機材とインターネット環境が必要である。最も重要な機材は、スイッチャーとエンコーダーである。筆者は、ビデオカメラの入力を切り替えるスイッチャーとしての役割と、映像を動画配信用に変換するエンコーダーとしての役割を合わせ持つ Atem Mini Extreme ISO というハードウェアを使用した。図1はAtem Mini Extreme ISOを中心としたシステム構成の最終形である。練習も含めて4回のライブ配信を行ったが、その都度、システム構成は改善していった。最終的には、Atem Mini Extreme ISOにビデオカメラ3台をHDMIケーブルで接続し、神楽の演舞と音声を入力した。舞台の上にカメラがあるのは、楽器の演奏者を正面から写すために鴨居の上にカメラを設置したからである。他の2台のカメラは観客席の後方から三脚を用いて設置した。音声はマイクからの入力、ミキサー経由でのライン入力、ビデオカメラからの入力を試したが、最終的にはビデオカメラからの入力とした。続いて、字幕を表示させるためにiPadをAtem Mini Extreme ISOにHDMIケーブルで接続した。入力された映像は2つのモニターで確認した。一つは最終映像を確認するための小型のモニター、もう一つはそれぞれのビデオカメラとiPadの映像を確認するためのマルチビューモニターである。出力される音声はモニターにヘッドフォンを繋いで確認した。Atem Mini Extreme ISOはパソコンを使ってコントロールする必要があるので、ノートパソコンを接続した。最後にAtem Mini Extreme ISOから出力された映像と音声動画を配信サイトに転送するためにスマートフォンを接続した。加

表1 ライブ配信の内容

ライブ1	2021年9月25日 若林神楽社中による「大蛇」 インタビューの話題：伝統を守る意義 アーカイブスURL：https://www.youtube.com/watch?v=ru4I7VeICGM
ライブ2	2021年10月30日 漁山神楽社中による「八幡」と「大蛇」 インタビューの話題：漁山神楽社中結成の由来 アーカイブスURL：https://www.youtube.com/watch?v=E-LmUG0GD70
ライブ3	2021年12月4日 岡見神遊座による「道返し」と「大蛇」 インタビューの話題：岡見神遊座が乗り越えた苦難 アーカイブスURL：https://youtu.be/JXhjlEKLgVk

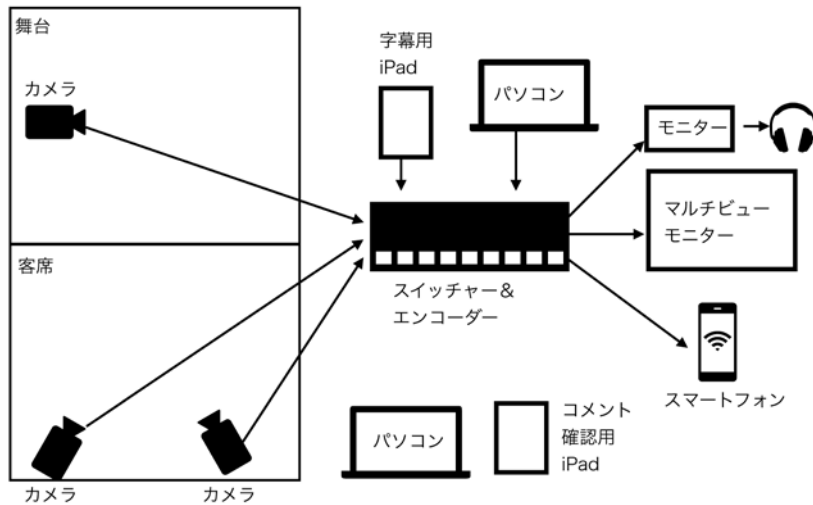


図1 ライブ配信のシステム構成

えて、筆者自身がYouTube Studioを操作するためにもう一台ノートパソコンを用意した。さらに、最終的な配信が問題なく行われているかを確認しながら、視聴者からのコメントをモニターするためにもう一台iPadを用意した。

c) 字幕

前述したように、石見神楽の口上と歌は一般人にとっては理解が難しい。文化を共有していない外国人の場合、さらに理解は困難である。本研究では、神楽初心者でも何が言われているか理解できるように、歌・口上・状況について字幕を画面に挿入した。歌と口上は『校訂石見神楽台本』（篠原、1982）をもとにした。石見神楽社中の多くは、この台本を使用しているが、上演時間に合わせて台本の一部をカットしたり、歌や口上の順番を入れ替えたりすることがある。神楽社中と打ち合わせをして、上演される歌と口上を前もって教えてもらい、それを筆者が英語に翻訳した。歌と口上は中世の日本語で書かれているが、現代語には訳していない。インタビューは標準語で行われるので、インタビューの日本語字幕は省略し、英語による字幕のみとした。状況については、何が起きているかわかるように説明を英語と日本語で加えた。登場人物の名前や剣の名前等を字幕で表示した。「大蛇」では大蛇が様々な蛇胴の巻き方を披露するところが見所であるため、蛇胴の巻き方の名称を字幕表示し、視聴者の知識獲得を援助した。蛇胴の巻き方の名称は社中ごとに異なっているため、各社中が用いる名称を表示した。

字幕はプレゼンテーションソフトのPowerPointを用いた。緑色の背景にテキストを乗せて、字幕を作成した。そのファイルはiPadに保存し、iPadをスイッチャーのAtem Mini Extreme ISOに接続した。Atem Mini Extreme ISOのクロマキー機能を用いて、緑色の部分を透過し、字幕として画面に表示させた。Atem Mini Extreme ISOにも字幕を表示させる機能があるが、字幕の数が限られている上、スイッチング操作が複雑になる。スイッチャーのオペレーターがカメラ、音声、字幕を同時に操作することは困難である。しかし、PowerPointとiPadを使えば何枚でも字幕を用意でき、字幕表示専門の担当者に操作を任せ

ることができる。

d) カメラの設置と操作

本研究ではパフォーマンスを複数のビデオカメラで撮影し、臨場感のある映像の配信を試みた。ビデオカメラは3箇所配置した。舞台の鴨居の上から奏楽を写すカメラ、客席後ろの右側上部から舞台全体を写すカメラ、客席後ろの左側上部から舞台全体を写すカメラである。カメラの操作は大学生の研究補助者が行なった。映像の切り替えにはAtem Mini Extreme ISOを用い、筆者がオペレーターとなった。会場で神楽を鑑賞する場合と異なり画面越しに見る場合は、一つの角度からの映像は単調になりやすい。複数カメラの切り替えで退屈しないような演出を目指した。

e) 動画配信サービス

動画配信サービスにはYouTubeライブを用いた。YouTubeは動画配信サービスの草分けであり、世界で22億人のユーザーがいるとされている（Degenhard, 2021）。Pew Research Centerによれば、アメリカ人の81%がYouTubeを使用しており、そのユーザーは毎年増加している（Auxier & Anderson, 2021）。ライブ配信機能は2008年に追加された（Vloggers, stars alike gather, 2008）。チャット機能があり、YouTubeのアカウントを持っているユーザーはコメントを投稿することができるので、リアルタイムでの視聴者との交流が可能となる。本研究では研究補助者がチャット画面をモニターし、演目の後の交流タイムで使うと効果的と思われるものを筆者に渡した。筆者はコメントの中からポジティブな感情を引き起こすと思われるものや石見神楽の理解に役立つ可能性のある質問を抜き出し、司会に伝え、質疑応答コーナーにおいて、コメントを読み上げ、視聴者に感謝の意を述べた。

f) ライブ配信遂行体制

ライブ配信の遂行にはチームが必要である。筆者が総括を務め、プログラム作りと初めてのYouTubeライブ配信を行った。筆者はライブ配信の未経験者であったが、YouTubeでライブ配信のコンテンツを視聴し、実施方法を学び、Atem Mini Extreme ISOとYouTube Studioを操作した。YouTube Studioとはライブ配信をする際に用いるYouTubeのサービスである。3台のカメラのうち1台は鴨居に設置したまま動かさずにおいたので、2台のカメラの前に一人ずつ担当者が構えた。字幕の表示のために、神楽の歌と口上を聞き取れる能力のある補助者が一人ついた。筆者のアシスタントとなる補助者一人、および、YouTubeに配信されている映像と音声をモニターする補助者が一人、最後に司会が一人、合計7人のチームでYouTubeライブ配信を実施した。

(2) ライブ配信視聴体験の評価

「ライブ配信視聴体験」は「ライブ配信の音声・映像・インタビュー・パフォーマンス・質疑応答・字幕・カメラの切り替えに対する視聴者の評価」と定義した。これらの項目について視聴者に4件法で評価してもらった。

(3) 潜在的観光客の増加

「潜在的観光客」は「石見神楽のライブ配信をもっと見てみたいと思う視聴者」と定義した。具体的には、筆者の石見神楽チャンネルの新規購読者数によって測定する。筆者は2019年から石見神楽チャンネルを開設し、英語による石見神楽の解説ビデオを掲載しているが、本研究を始める前の既購読者数は2名である。YouTubeライブによって購読者が増えることを期待している。

(4) 石見神楽鑑賞意欲への効果

「石見神楽鑑賞意欲」は「石見神楽をもっと見たいと思う意欲」と定義した。ライブ配信が石見神楽鑑賞意欲を高めるものかを調べるために、以下の4つの順位で石見神楽鑑賞意欲を測定した。

- 1 石見神楽を見てみたいと全く思わない
- 2 石見神楽を見てみたいとあまり思わない
- 3 すこし石見神楽を見てみたいと思う
- 4 かなり石見神楽を見てみたいと思う

(5) データ収集方法

アンケートはGoogle Formsを用いてライブ毎に、ライブ終了後2週間の間に実施した。アンケート項目は国籍、性別、石見神楽についての知識、音声・映像・インタビュー・パフォーマンス・質疑応答・字幕・カメラの切り替えについての評価、石見神楽鑑賞意欲である。4件法による選択肢に加えて、テキストによる自由回答欄を設けた。

ライブ配信視聴とアンケート協力への依頼はチラシ、ウェブサイト、プレスリリース、Facebook、ライブ会場において行った。チラシはライブ毎に50枚を印刷し石見神楽に関心がある知り合いに配布した。浜田市役所及び浜田市観光協会のウェブサイトにライブ配信の情報を掲載していただいた。また、山陰中央新報社から取材の申し込みがあり、ライブ配信のリンクを新聞紙面に掲載してもらった。メディア向けのニュース配信サービスであるPR Timesのウェブサイトに筆者がライブ配信についての記事を投稿した。さらに、筆者のFacebookで在日外国人や海外の教育関係者に視聴を呼びかけた。さらに、ライブ3においては、会場にいた観客に視聴依頼のチラシを配布し、アーカイブスの視聴とアンケートへの協力を呼びかけた。ライブ配信の最後に司会がYouTubeの概要欄にGoogle Formsでのアンケートのリンクがあることをアナウンスし、アンケートへの協力を呼びかけた。

3. 結果

(1) 回答者の概要

アンケートには49人の回答があった。表2にライブ毎の国籍別回答者数を示す。

表2 国籍別人数

国	ライブ1	ライブ2	ライブ3	合計
日 本	17	10	12	39
中 国		1	1	2
ア メ リ カ	2			2
フ ラ ンス	1			1
イ ギ リ ス	1			1
マ レ ー シ ア	1			1
香 港		1		1
不 明	1		1	2
合計	23	12	14	49

回答者は49人中39人が日本人であった。

性別の人数は表3の通りである。

表3 性別人数

性	ライブ1	ライブ2	ライブ3	合計
男 性	14	7	7	28
女 性	9	5	7	21
合計	23	12	14	49

回答者は49人中28人が男性であった。

年代別の人数は表4の通りである。

表4 年代別人数

世代	ライブ1	ライブ2	ライブ3	合計
1-19	2	1	1	4
20-29	2	2	1	5
30-39	7	3	4	14
40-49	2	0	2	4
50-59	9	4	4	17
60-69	1	1	2	4
70-79	0	1	0	1
合計	23	12	14	49

回答者は50代が多く、30代の回答者が続いた。

石見神楽についての知識は表5の通りである。

表5 石見神楽についての知識

知識	ライブ1	ライブ2	ライブ3	合計
全く知らない	0	0	1	1
聞いたことはあるが、よく知らない	3	1	3	7
ちょっと知っている	10	4	8	22
よく知っている	10	7	2	19
合計	23	12	14	49

回答者は石見神楽についてある程度の知識を持っている人が24人、よく知っている人が18人であり、回答者の多くは石見神楽に馴染みがある人であった。

(2) ライブ配信視聴体験の評価

a) 音声の評価

音声が聞きやすいものであったか、聞きにくいものであったかを4件法により回答してもらった結果が図2である。

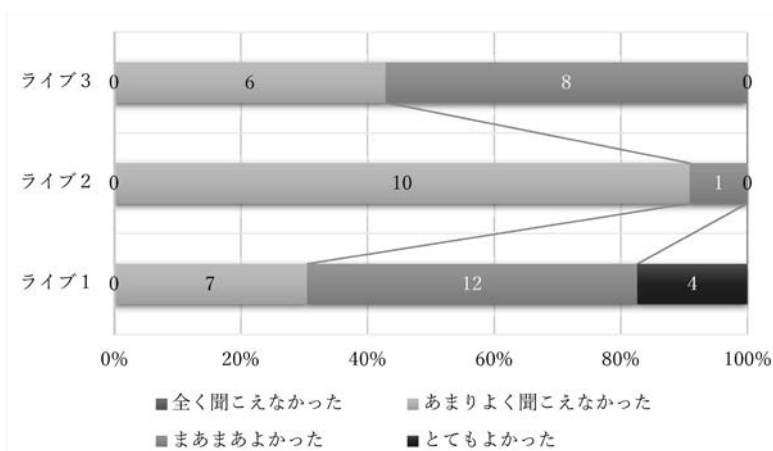


図2 音声の評価

ライブ2の合計が11なのは無回答が1つあるためである。ライブ途中で一部、音声が途切れることがあった。音声が切れた原因は筆者がスイッチャーの操作を間違えたことと、音声を採取していたカメラのバッテリーが切れたためである。演者の声が聞こえにくいという問題もあった。ライブ1では、演者のマイクをミキサーに繋ぎ、それをライン入力したので、演者の声ははっきり聞こえたが、ライブ2とライブ3ではビデオカメラから採取した会場に流れる音声を配信したため、太鼓や笛の音に比べて演者の声が小さく聞こえた。

b) 映像の評価

映像が見やすいものであったか、見にくいものであったかを4件法により回答してもらった結果が図3である。

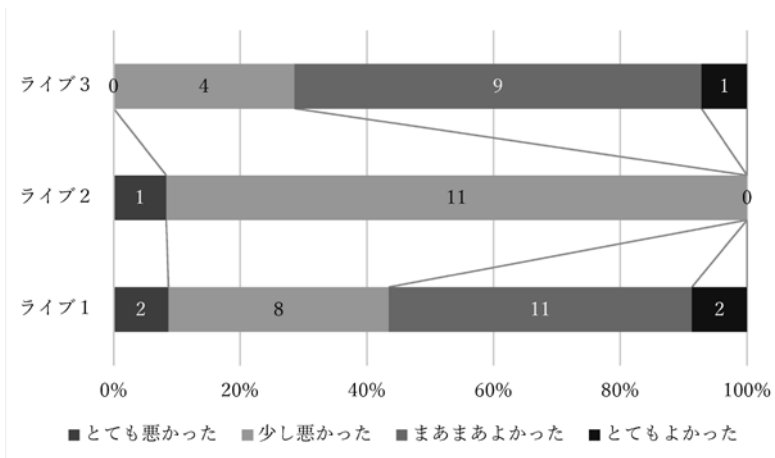


図3 映像の評価

ライブ途中で映像がフリーズしたり、画面が暗くなることがあった。フリーズの原因は通信速度の問題で、画面が暗くなったのは、カメラのバッテリーが切れたためである。ライブ1ではカメラのオートフォーカスが作動し焦点が定まらずに映像がボケることがあった。音楽を撮影するために舞台の鴨居に設置したカメラはバッテリーが切れることと、映像がスイッチャーに送ることができないというトラブルがあった。後者の原因はHDMIケーブルが長すぎたためと思われる。

c) インタビューの評価

インタビューに意味があったかどうかを4件法により回答してもらった結果が図4である。

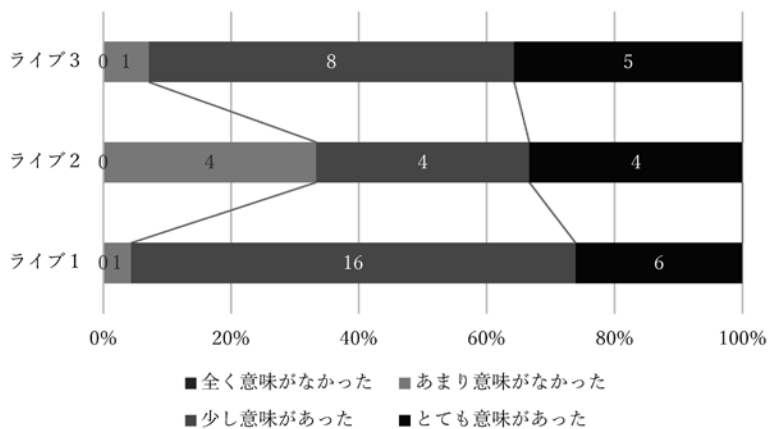


図4 インタビューの評価

インタビューはライブの始まりの5分で行った。多くの視聴者がインタビューが意味あるものと回答した。ライブ1においては事前に収録したインタビューをライブ中に放送した。

d) パフォーマンスの評価

パフォーマンスが楽しめたかどうかを4件法により回答してもらった結果が図5である。

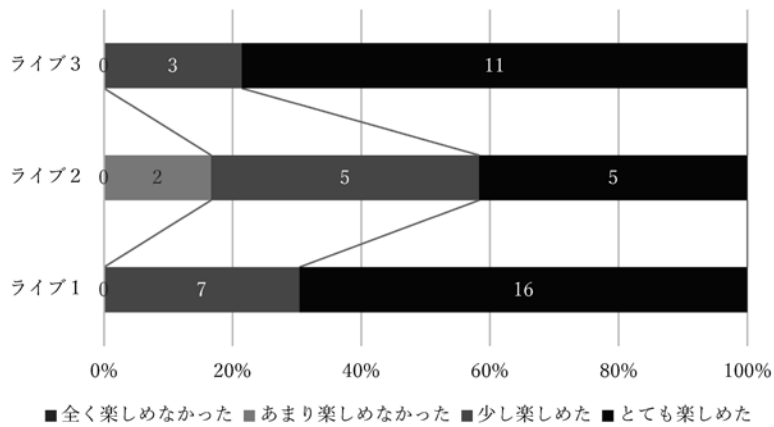


図5 パフォーマンスの評価

ライブ配信の大部分は社中によるパフォーマンスが占めた。パフォーマンスは約60分間であった。ほとんどの視聴者がパフォーマンスを楽しんだと回答した。

e) 質疑応答の評価

質疑応答に意味があったかどうかを4件法により回答してもらった結果が図6である。

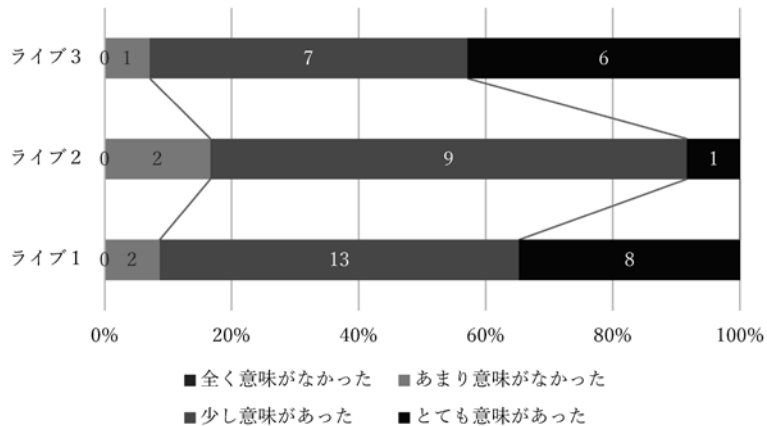


図6 質疑応答の評価

質疑応答はパフォーマンス終了後、5分間で行われた。多くの視聴者が質疑応答に何らかの意味を見出していた。

f) 字幕の評価

字幕に意味があったかどうかを4件法により回答してもらった結果が図7である。

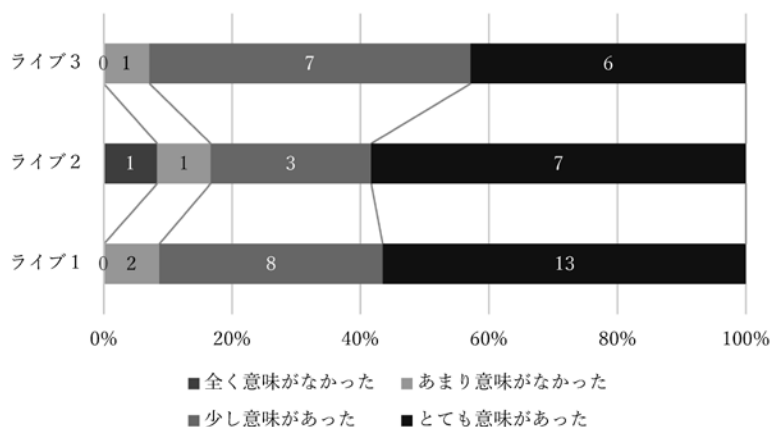


図7 字幕の評価

インタビューの字幕は英語のみ、パフォーマンスの最中は日本語と英語で表示した。ライブ1の収録ビデオは英語字幕の準備が間に合わず、不十分であった。多くの視聴者が字幕に肯定的な回答をしていた。

g) カメラの切り替えの評価

複数カメラの切り替えに意味があったかどうかを4件法により回答してもらった結果が図8である。

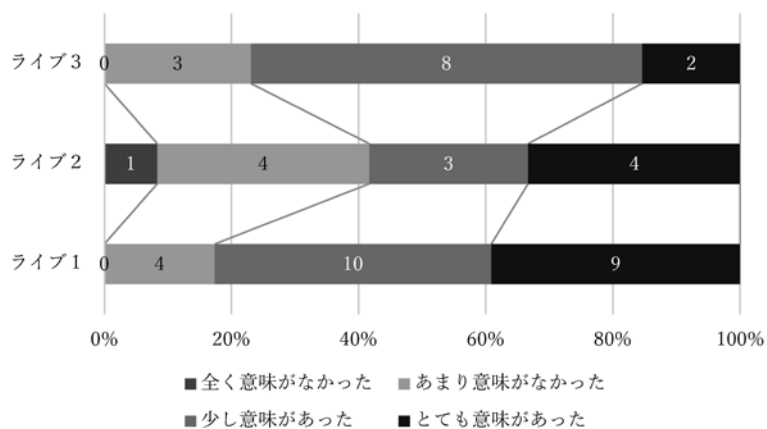


図8 カメラの切り替えの評価

ライブ3の合計が13なのは無回答が1つあるためである。ライブ1では途中で2つのカメラのバッテリーが切れたため、最後は予備の手持ちカメラのみとなった。ライブ2においては奏楽を映すカメラのバッテリーが切れたため、後方2台のカメラを使用した。ライブ3でも同様に奏楽を映すカメラの情報がスイッチャーに送られず、後方2台のカメラによる配信となった。

(3) 潜在的観光客の増加

ライブ配信の視聴者数と筆者の石見神楽チャンネルの新規購読者数は、表6の通りである。

表6 視聴者数と新規購読者数

	ライブ1	ライブ2	ライブ3	合計
配信日	9月25日	10月30日	12月4日	
同時視聴者数	77	34	45	156
視聴回数	2141	1192	991	4324
訪問者数	549	1006	749	2304
高評価	34	20	17	71
低評価	0	0	0	0
新規購読者数	11	6	7	24

ライブ1は無観客で行われた。コロナ禍のため夜神楽上演はしばらく中止されており久しぶりの夜神楽となり、楽しみにしていたファンがライブ配信を視聴した。最大の同時視聴者は77名であった。ライブ2は夜神楽が再開し観客が会場にいる中でライブ配信を行った。会場の定員は50人で満員であった。最大の同時視聴者数は34名であった。ライブ3も満員の観客がいる中でライブ配信となった。最大の同時視聴者数は45名であった。視聴回数と訪問者数は2022年1月19日の時点でのものである。ライブ配信動画はアーカイブスに保存され、配信日以降、編集されずに録画動画が公開されているので、視聴回数や訪問者数は時間の経過と共に増えている。「高評価」はついたが「低評価」はついていなかった。新規購読者数は終了後すぐに増えた購読者の数である。これら3つのライブ配信動画を通じて24人の新規の購読者が獲得できた。2021年12月以降、筆者の石見神楽チャンネルに新しいコンテンツを追加していないが、数ヶ月後の2022年4月には購読者が70人に増えていた。

(4) 石見神楽鑑賞意欲への効果

回答者にライブ配信を見て、石見神楽を見たいかどうかについて4件法により回答してもらった結果が図9である。

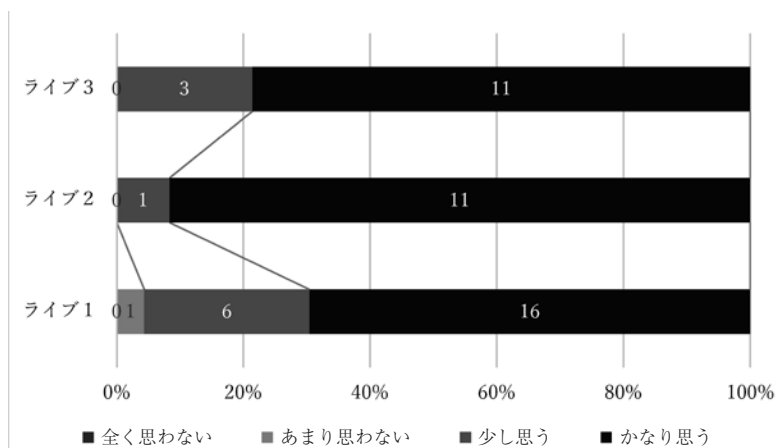


図9 石見神楽鑑賞意欲

「全く思わない」という回答はゼロであった。どのライブも「少し思う」と「かなり思う」という回答が9割以上を占め、石見神楽鑑賞意欲が高まった。

石見神楽に対する事前の知識が石見神楽鑑賞意欲に影響を与えた可能性があるため、石見神楽に対する知識と石見神楽鑑賞意欲をクロス集計したものが表7である。

表7 石見神楽に対する知識と石見神楽鑑賞意欲の関係

	全く思わない	あまり思わない	少し思う	かなり思う
全く知らない				1
よく知らない				7
ちょっと知っている		1	6	15
よく知っている			3	16

表7にある通り、石見神楽に対する知識に関係なく、石見神楽鑑賞意欲が高まっていた。

(5) 自由記述欄のコメント

アンケートの自由記述欄にはライブ配信の技術やプログラムに関するコメントとライブ配信そのものに関するコメントがあった。以下では、それらを全て列挙する。

a) ライブ1のコメント

- ・ The sound was not so good and the camera a bit shaky & blurry, but it was great to watch a live performance. I'm looking forward watching more Iwami Kagura online. Thank you.
- ・ 映像がぶれたり、見せ場なのにいきなり囃子に切り替わったりが多過ぎて見ていて落ち着きませんでした。囃子方を映すのは最初と最後で十分だと思います。それより舞に重点を置いてほしいです。囃子の音量で大太鼓が笛と歌に負けていて残念でした。腹に響くような太鼓の音をもっと伝われば良かったです。また、大蛇の技のテロップが大き過ぎて舞が隠れてしまうので、もっと小さくして技が終わればその都度消した方がいいのではないかと思います。口上の字幕はとても良かったです。今後に期待しています。
- ・ 冒頭のビデオや生配信での複数カメラや字幕はとても感心しました。配信なので多少の画質や音声の劣化は仕方ないと思いました。大太鼓の低音が聞こえて来ないので迫力には欠ける部分もありました。カメラでは正面アップの手持ち？の映像がピント等のブレが多かったので気になりました。石見神楽の映像は広角で全体が映っていたほうが雰囲気や間合いが伝わって来て好きです。個人的な感覚です。しかしこれだけ凝った配信を見させて頂けたので十分に楽しめました。若林神楽社中さんとスタッフの皆さん、ありがとうございました。
- ・ セリフのテロップがあって分かりやすかったです。
- ・ テロップの切り替えのタイミングがずれていることがあった。一番手前のカメラのピントが安定していなかった。おじいさん役の人の台詞が聞き取りにくかった。
- ・ 初心者にとって字幕があったのは神楽の理解に大変役に立ちました。海外から視聴され

た方もいたようですので、質問コーナーも字幕があればよかったかなと思います。是非とも今後の開催を期待しています。このような機会を頂き本当にありがとうございました。

- ・ タイミングの良いカメラワークや字幕表示など、飽きさせない工夫があって、臨場感が伝わってきました。学生さんの石見神楽に対する真摯な姿勢も伝わってきて良かったです。ありがとうございました。
- ・ Much of what was said had no subtitles, so it was difficult to understand. This was especially true of the introductory videos before the performance. Additionally, there were a few problems with the video and with subtitle timings. However, the performance was great, and I would love to see performances with more detail added.
- ・ I didn't understand the talk or the Q&A at all without subtitles, and I only saw a basic summary of the performance meaning - it didn't feel like a direct translation, more like a short explanation. There were some video problems (focus, battery messages).
- ・ I think the culture performance is very interesting, but the flute playing for a long time bothers my ears.
- ・ I've watched kagura many times but thanks to the subtitles this was the first time I could understand what the characters and the chorus said. (The native speakers of Japanese who I watched with said the same!)
- ・ There was no complete subtitle for the talk before the show and Q&A, so I don't really understand. I'm amazed by how they manage the snake long body. Thru the show, I'm able to learn some of the myth story of God Susano.
- ・ 口上に日本語訳がほしかった。
- ・ 歌詞や台詞を字幕で出して頂けたのはすごく有難かったです。何度も現地で観てますが、台詞など分からなかったのが分かって嬉しいです。できれば演じている方の名前なども出してほしかったです。また、最初の映像やインタビューも社中の皆さんが近く感じられて良かったです。途中、バッテリー交換のメッセージなどが出てきてしまっただけで映像が隠れてしまったのが少し残念でした。
- ・ 初めに社中の紹介動画があり、社中の成り立ちや魅力が伝わりました。そして、演舞中の口上には、字幕がついていて、聴覚障害の人でも分かる素晴らしい動画だったと思います。カメラのピンボケと下から映したカメラの揺れがなくなれば、もっと良いライブになると思います！素敵な試みありがとうございました。
- ・ 画面が乱れることがあり勿体無いなおもった。足名椎の現代語でのアドリブの部分は手で打って日本語で表示できたらもっとよいとおもった。あらすじが少し難しく聞こえたので石見の観光協会が石見神楽のあらすじを漫画にしたものをのせているのでそれをうまく活用すればもっと伝わりやすいのではとおもった。もっと神楽についてや、ものや、どうぐ、大蛇だと蛇が和紙でできているとかの説明があればよかった。コロナが終わり神楽をみたいときにどこに行けばいいかや神楽についてもっと知りたいときはどうすればよいか（石見神楽のHPのURLをのせるなど）やついでに浜田市の観光のPRなどコロナ禍明けや次につながるようなものをするとう石見神楽も発展するし観光にもいい影響があるとおもった。また社中のかたから社中について演目について話し

たいことを事前に聞いてもっと深いものを話したら社中についてだったり神楽についての理解が深まるとおもった。

- ・地元に戻れない現状で、大変懐かしく、また日本遺産の石見神楽をライブで見れるのはありがたいです。出来ればコロナ後もこのようなライブ配信をしていただけることを願います。今日はありがとうございました。
- ・コロナ禍で生で見れないのが残念だけど、ライブでいつも一緒に観に行っている仲間とオンラインで見れたので良かった。
- ・若林神楽社中の皆さんの元気そうな顔が見れて良かったです。アドリブのセリフも若林神楽社中っぽくて良かったです！
- ・貴重な機会をありがとうございました！カメラワークや字幕の時差、バッテリー交換が表示されるなど良い意味で課題ですね。はやく現地で石見神楽を拝見できる日が来ますように祈っています。
- ・日脚社中さんから教わった神楽、良かったです。できれば大蛇8頭の演舞も見たかったです。今後もこう言った企画をお願いします。
- ・父が浜田の出身なのですが、私は神奈川生まれなので始めて観ました。大蛇の舞を躍動的に行うのは大変な稽古が要ったろうとお察しします。

b) ライブ2

- ・ Internet connection was not stable, but still thanks and will watch again if there is another live in the future.
- ・ 音声、映像が不安定で残念だった。
- ・ 今回で2回目の視聴ですが、バッテリー問題、音声・画像の乱れの問題が次回は改善されていることを期待します。カメラ切り替えですが、引いた画像だけで良いです。近すぎると足さばきなどが映らないので。
- ・ 切れることがあるので改善してほしい。
- ・ 映像、音声スムーズだと見ることができが…新しい試みですね、頑張ってください。
- ・ 楽しんで見させていただきました。音が大きくなると画像が粗くなったりコマ送りみたいになったりしたのが残念です。はじまりのインタビューも音が聞こえませんでした。聞こえなくても英語のテロップがあるところは、なんとなく理解できました。
- ・ 久しぶりに石見神楽を観て良かった。（映像や音声の性能アップができればもっと良いのですが…）次回も楽しみにしています。
- ・ 今後もこのようなライブ配信を続けてほしい。映像の切り替えの際にSONYマークが出て音声と画像が切れる。試験的実施なので仕方なし、頑張ってください。
- ・ 引き続き、是非続けてください。いろんな社中の神楽が見てみたいです。また、有観客になれば、どよめきとか拍手とか声援が聞こえてより一層楽しめると思います。
- ・ 石見神楽の情報や楽しさを伝えるための配信としては良かった。ただ定期公演、三宮神社での配信は辞めた方が良くと思います。実際現地まで出向いて観覧していただいている方々は入場料をお支払いをして、見ていただいています。配信をするとなると『入場料まで払って。。』となる方もおられると思います。決して配信が悪い訳ではありません。配信の仕方を少し変えたらいいと思います。入場料などが無い時など。コロ

ナ禍でイベント開催がなく難しいとは思いますが。。。ご意見としてお伝えしました。

c) ライブ3

- ・音声を聞こえているが映像がコマ送りになったりしていた。逆に映像は正常だが音声がか聞こえなかったりも。
- ・もう少し音が聞こえやすいと嬉しいです。
- ・今日はありがとうございました。画像も鮮明で衣装がとてもきれいでした。お囃子もよく聞こえていて、クライマックスには身体が動き出しました。大蛇はやはりワクワクします。ただ、音声は女性の声が聞きづらかったです。
- ・キャプションは英語が提灯と重なり読めない場面が何度かありました。見間違いかもしれませんが、国名がいくつかあったときアフリカにnがついていたように見えました。
- ・現地みて、その翌日に動画をみました。迫力やライブ感は現地にはかないませんが、現地に行けない人もいて、コメントでの感想を拾って演者に伝えていたのはいいと思いました。カメラの前を横切らないようにというアナウンスは現地であったらよかったです。
- ・Facebookでのカレンダー販売のお知らせの投稿で知り、初めての鑑賞でしたが字幕などの工夫があり、とても分かりやすく楽しめました。神楽に対するとつきにくい印象が変わりました。歌舞伎や能より面白いと思います。特に外国の方は喜ばれるでしょう。ライブ配信では、字幕の展開が早い部分がありできれば余裕をもって進めていただきたいのと、子供たちや若い人向きに難しい漢字にはふりがなを当てていただくのと良いと思います。(私は英語のほうで確認しました。) また、神楽の音声はよかったです。女性や座長さんの声が聞き取りにくかったので改善を望みます。自宅での鑑賞はリラックスはできますが、やはり会場での鑑賞の迫力にはかなわないと思います。このライブ配信でまず各演目の内容や鑑賞のマナーなどを理解し、是非とも石見に足を運んで生の夜神楽を堪能したいと思います。出来れば月に一度程度このライブ配信を開催していただくと有難いです。
- ・このような取り組みは非常に有意義だと思います。自宅で見られるのは幸せでした。また石見に見に行きたくなりました。ただ、少し画像と音声に難があったのは残念でした。配信で問題があるとビギナー層は配信を切ってしまう可能性が高いです。次があるのであれば改善をお願いします。
- ・私は浜田市出身で何度も神楽を見てきて、改めて神楽の魅力を知ることが出来ました。
- ・スモーク、火花と想像以上に迫力がありとても楽しめました。
- ・私は昔、出雲で神楽をしていましたが、同じ県でも石見神楽はかなり雰囲気が違いました。大蛇も登場して、迫力があって面白かったです。

4. 考察

以上の結果を踏まえて、ライブ配信視聴体験の評価と課題、潜在的観光客の増加、石見神楽鑑賞意欲への効果について考察する。

（1）ライブ配信視聴体験の評価と課題

まずは、ライブ配信を初めて実施してみた感想から述べたい。筆者はライブ配信の初心者であったが、やってみればできるものであるとわかった。難しかったのは機器の操作に習熟することである。合計で4回のライブ配信を行い徐々に技術が向上した。もう一つ難しいのは台本作りである。石見神楽の魅力を引き出すためのインタビューの内容を作り上げることは取材と打ち合わせが必要であった。しかし、アップロードする動画と違い、ライブ配信は一発撮りなので手間がかからなかった。動画の編集は終わりのない作業となり時間が無限にかかるが、ライブ配信は良くも悪くもその場で終了となるので、主観的にはライブ配信の方が短時間の作業で済んだ。

映像と音声の問題が多く発生した。問題の原因の一つは筆者と筆者の補助者の技術レベルの稚拙さにある。7月に予行練習をした時から比べて徐々に機器操作のレベルが向上し、ライブ3における音声と映像は「まあまあ良かった」という評価が最も多かった。無料であったこと、大学生が司会やカメラマンを務めていたことで、許してもらえたのだと思う。

石見神楽のライブ配信で音声の入力と確認が非常に難しいことがわかった。ライブ1のコメントに「囃子の音量で大太鼓が笛と歌に負けていて残念でした。腹に響くような太鼓の音をもっと伝われば良かったです」というコメントがあるが、ライブ1では社中の方がミキサーを操作してくれたので、ミキサー経由の音声をラインでAtem Mini Extreme ISOに入力した。大太鼓と小太鼓は音量が大きくなりすぎ、ミキサー上で確認すると赤く表示され音が大きすぎるため緑色の表示まで戻す作業が困難を極めた。専属の音響担当を配置することは難しかったので、ライブ2からはビデオカメラの音声をAtem Mini Extreme ISOに入力した。この方法は会場の雑談まで入力されてしまうという問題があるが、手間がかからない方法であると同時に会場のざわざわした雰囲気も伝達できると判断した。また、筆者は最終的に出力される音声をモニターにイヤホンを接続して確認していたが、神楽会場全体の音が大きすぎて、音声の確認がうまくできず、出力されていないことに気づかないということがあった。周りの音を遮断できるヘッドフォンを使用して出力される音声を確認すべきである。

映像と音声の問題のもう一つの問題は通信環境であった。浜田の夜神楽週末公演の会場には光ファイバー回線が繋がっていない。そのため、docomoの4G回線を使ったが、映像が止まったり、カクカク動くという問題が発生した。また、スマートフォンやパソコンを使って視聴する上では気にならないが、テレビで見ると映像が粗くなり、人物が誰だかわからなくなってしまうという問題も明らかになった。これは、本研究の映像の解像度が1920×1080ピクセルであったためである。

インタビュー、質疑応答、字幕は石見神楽の魅力を初心者にわかりやすく伝える仕掛けであるが、これらの評価はとても高かった。字幕についての評価は特に高く、「歌詞や台詞を字幕で出して頂けたのはすごく有難かったです。何度も現地で観てますが、台詞など分からなかったのが分かって嬉しいです」等のコメントがあった。英語のコメントでは字幕が不十分であったという不満も述べられている。字幕に対する高い評価は、地方の伝統芸能を観光の商品として販売するには、詳しい知識を与えることが必要であるという藤村(2012)の考え方に沿うものである。ライブ配信では舞台上に字幕専用の装置がなくても簡単に字幕を表示できることが利点である。

(2) 潜在的観光客の増加

本研究ではライブ配信という新しい情報発信方法を試行した結果、筆者の石見神楽チャンネルの購読者数が2人から24人に増えた。2022年4月には購読者が70人に増えていた。購読者数が増えた理由は石見神楽のライブ配信が希少なチャンネルだから登録してもらえたのではないと思われる。また、外国語字幕付きの石見神楽のライブ配信は筆者のチャンネルのみの特徴なのでその希少性もあったかもしれない。控えめな購読者数の増加ではあるが、以前の筆者の動画に比べれば、潜在的観光客を増やすことができたと言える。

ただし、チャンネル購読者の数だけでは外国人の潜在的観光客にアクセスできたかを判断することは困難である。外国人の潜在的観光客がチャンネル登録者になったかどうかはわからない。YouTubeアナリティクスを参照したが、チャンネル購読を非公開にしている購読者が多いため、どの国の人が購読者となっているかはわからなかった。

本研究のライブ配信の視聴者の多くは日本人であった。表1にもある通り、アンケートに回答した49名のうち、外国人は8名しかいなかった。外国人視聴者が少なかった原因としてライブ配信の時間帯が影響していると思われる。筆者の知り合いの中国人、イギリス人、一人のアメリカ人は日本在住の方である。もう一人のアメリカ人は早起きしてライブ配信を視聴してくれた。日本時間夜8時はアメリカ東海岸の朝7時であった。ライブ配信には時差という壁があることに気付かされた。

いずれにせよ、石見神楽を知らない外国人へのアクセスについては、ライブ配信という新奇性だけでは解決できない問題である。教育的なコンテンツがある外国語字幕付きのライブ配信は石見神楽の存在を既知に知っていて、もっと知りたいと思う外国人への情報発信として有効であろう。しかし、石見神楽の存在を知らない外国人にアクセスするには、別の方法が必要である。外国人の潜在的観光客に対して石見神楽の魅力を知ってもらうためにはどのようなメディアが良いか、さらに研究を進めたいと思う。

(3) 石見神楽鑑賞意欲への効果

図1からわかるようにライブ1、ライブ2、ライブ3を通じて「石見神楽鑑賞意欲」は高かった。ライブ配信を視聴した9割の回答者が石見神楽を見たいと回答した。クロス集計の結果、石見神楽に対する事前の知識とは関係なく、ライブ配信を見て石見神楽をもっと見たいと感じられたと判断できる。このような結果となった要因は、同期性と双方向性のあるライブ配信は、会場の雰囲気や臨場感が伝わり、実際に会場に足を運んで見たいと感じさせたからではないかと考えられる。コメントには、「自宅での鑑賞はリラックスはできますが、やはり会場での鑑賞の迫力にはかなわないと思います。このライブ配信でまず各演目の内容や鑑賞のマナーなどを理解し、是非とも石見に足を運んで生の夜神楽を堪能したいと思います」、「自宅で生の夜神楽が見られるのは幸せでした。また石見に見に行きたくなりました」等の意見があり、このライブ配信により石見神楽鑑賞意欲が刺激され、実際に会場に足を運んで見たいと感じられたと伺える。アンケートの回答者の数は決して多くはなかったが、字幕や教育的なコンテンツのあるライブ配信は石見神楽鑑賞意欲に効果があると言える。

5. おわりに

本研究はインバウンド観光の振興にライブ配信が役立つものかを調査した。地方の伝統芸能を観光の商品とするには観客を育てる必要があるという理論に依拠しつつ、ライブ配信の特性に着目し、筆者は教育的コンテンツと視聴体験を高める工夫を組み入れた石見神楽のライブ配信を3回試行し、視聴体験と石見神楽鑑賞意欲に対するアンケートを行った。49名の回答者から得られた結果に基づき、ライブ配信視聴体験の評価と課題、潜在的観光客の増加、石見神楽鑑賞意欲への効果を考察した。映像と音声の問題はあったものの概ね許容できる視聴体験となったこと、映像と音声のスムーズな配信には課題が残ること、字幕を含めた教育的なコンテンツは評価が良かったこと、初心者でもライブ配信ができることがわかった。また、ライブ配信によって潜在的観光客が微増し、石見神楽鑑賞意欲が向上したことも明らかになった。これらの結果から、ライブ配信は石見神楽の潜在的観光客を増やすことと石見神楽鑑賞意欲の向上に役立つと結論づけた。本研究を通じて、外国人の潜在的観光客にアクセスするにはライブ配信以外の情報発信方法が必要なことが新たな課題であると認識できた。地方の伝統芸能をインバウンドの商品として外国人に認知してもらう方法を探求していきたい。

地方の伝統芸能である石見神楽をインバウンド観光の商品とするには、潜在的観光客への効果的な情報発信が重要である。石見神楽の魅力は見ただけではわからない。美しい大自然や歴史的建造物の鑑賞と異なり、石見神楽を堪能するには日本の神話、所作、音楽、衣装、歴史等についての深い知識が必要である。英語字幕と教育的なコンテンツを含むライブ配信を行った本研究はこの考え方を裏付けた。本研究ではHD映像を4Gで送信したので、スムーズなライブ配信にはならなかったが、将来、5G環境が整えば、4Kでライブ配信することも可能となるだろう。通信技術の進歩は目覚しく、4Gの100倍のスピードを持つ5G環境が構築されつつある。インターネットを使った通信技術は技術革新のスピードが速い。今回はAtem Mini Extreme ISOを用いたが、新しいスイッチャーやエンコーダーが開発され、ライブ配信は誰でもできるものとなっていくだろう。プロモーション動画や教育動画の制作には時間と費用がかかるが、ライブ配信は比較的少ない負担で実施できる。コロナ禍は観光産業にしばらく暗い影を落とすと思われる。そんな時こそインバウンド観光の振興に関心を抱いている関係者は、新しいメディアを用いて地方の伝統芸能の素晴らしさを世界の人々に伝えることに取り組んでみてはどうだろうか。本研究がそのような取り組みに関心を抱いている人の一助になれば幸いである。

謝辞

本研究は令和3年度浜田市と鳥根県立大学の共同研究事業の成果です。浜田市役所産業経済部観光交流課と浜田市観光協会の皆様から多くの助言とご支援をいただきました。感謝申し上げます。また、ライブ配信に協力してくださった鳥根県立大学舞濱社中、石見神楽宇野保存会、若林神楽社中、漁山神楽社中、岡見神遊座の皆様にご感謝申し上げます。

引用文献

石塚尊俊（2005）『里神楽の成立に関する研究』岩田書院。

江口真理子（2020）「石見神楽の魅力伝えるインバウンド動画のあり方：物語の効果に注目して」『総

合政策論叢』40, 90-105.

江口真理子 (2022) 「日本遺産を題材としてインバウンド動画のあり方－『ストーリー』のある動画は石見神楽鑑賞意欲を向上させるか－」『総合政策論叢』43, 1-13.

「観光振興に生かせ石見神楽」(2019年1月29日)『山陰経済ウィークリー』2-6.

篠原實 (1982) 『校訂石見神楽台本』日下義明商店.

藤村和宏 (2012) 「地域伝統芸能の継承と変容が市場創造に及ぼす影響に関する考察－島根県の3地域における神楽をケースとして－」『香川大学経済論叢』84 (4), 41-127.

「ライブ配信需要が高まっている」(2021, 2月)『ビデオサロン』2号, 12-13.

Auxier, B. & Anderson, M. (2021). Social media use in 2021. Pew Research Center. Retrieved from <https://www.pewresearch.org/internet/2021/04/07/social-media-use-in-2021/>

Degenhard, J. (2021). Youtube users in the world 2017-2025. Statista. Retrieved from <https://www.statista.com/forecasts/1144088/youtube-users-in-the-world>

Vloggers, stars alike gather for YouTube live today. (Nov. 22, 2008). *The Guardian*. Retrieved from <https://pressreader.com/article/281483567229077>

キーワード：日本遺産、インバウンド観光、石見神楽、ライブ配信

(EGUCHI Mariko)

Investigating Tourism Promotion Effects and Issues of YouTube Livestreaming of Iwami Kagura

EGUCHI Mariko

Abstract

This study sought to investigate whether livestreaming of a local performing art could positively promote inbound tourism. Taking advantage of the features of new media and based on the theory that promotion of local performing arts must include measures to educate consumers, the author experimented with three Iwami kagura livestreaming shows whose programs contained educational contents and components to maximize the audience experiences. Using the data from surveys of 49 respondents, the author found that the YouTube livestreaming shows increased the number of potential tourists and positively influenced the viewers' willingness to watch Iwami kagura. Discussing the benefits and issues of livestreaming, the author suggested that inbound tourism promoters could consider livestreams as an option of inbound tourism promotion during the COVID-19 pandemic.